

社内システム OTASの特徴

前回の「団塊耕志録」のコラムで、オリジンの社内情報システムOTAS（オタスと呼んでいる）について触れた。売上、粗利、経費情報がリアルタイムに社内公開されており、おまけに期末の収益予測まで表示されている。良い数字なら良いが、悪い数字もそのまま表示され、結果前回のコラムのように社員の人が「不安」を感じてしまうという訳である。何故こんな事をしているのか？そもそもOTASとはどんなシステムなのか？

OTASの歴史は古く1991年に開始された。基本は全国のタクシー事業者を中心とした、一万件を超える顧客&関係先のデータベースと全社員の日報システムである。タクシー事業者はオリジンのユーザーでなくとも、新免のタクシー会社も含めすべて登録されている。また日報は本日12月20日現在で66万8885件累積されている。日報は営業、システム、役職問わず全員が一案件につき一葉を原則書くので、日々の件数はかなりの数になる。また個々の日報は基本的に顧客と社員に紐付いているので、顧客別、社員別に検索をすることができ、任意のキーワードでの全文検索が可能なので、66万件に及ぶ日報の中からある特定の日報を引き出すことが可能である。だからオリジンでは顧客の引き継ぎ、社員の引き継ぎについては比較的継承しやすい情報ベースがある。しかしOTASの特徴は、そうした一般的なグループウェアが持つ情報の共有化、一元化、リアルタイム化にあるのでは無い。OTASは汎用的なグループウェアのソフトではなく、オリジンの海野副社長の作ったオリジナルなソフトで、1991年以来改版を重ねてすでに四代目である。そしてその特徴の核心は、全員が全員の日報を読む仕組みなのである。つまり、部下の日報を上司が読み、把握するだけでなく、社員全

清野吉光氏のコラム 第27回

団塊耕志録



清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

OTASの思想

員がその日報を読み、また部下もまた直接の上司の日報のみならず、他の部署の日報も読み、そしてまた、もちろん社長の日報も読めるようになっていた。この仕組みはOTASが始まった当初からの仕組みだが、当時は役員、社員合わせた総数が10名に満たなかった。で、「全員が全員の日報を読む」事も苦にはならなかったが、現在の80名を超える人数になると、少し大変なので日報の「未読管理」の設定では、社員自身がどの人の日報を読みたいかを自由に設定できるようにしている。しかし、「日報検索」では、すべての日報が検索可能な対象となっている。こうした日報システムにおける「平等主義とオープン化」(もちろん組織、業務面では指示、命令体系は存在するが)は、何故生まれて来たのか？

「オリジン第2次創業」

オリジンの社内には「オリジンの第2次創業の志」
(<http://www.system-origin.jp/company/overview/vision/>)という文章が掲示

されており1992年4月3日という日付が入っている。この文書は今現在のオリジンの出発点をなすもので、言わば綱領的(こんなにかめしい言葉しか使えなくて申し訳ないが...)な文書である。6つの項目に分かれており、「1、会社理念 2、戦略方針 3、営業の原則 4、役員役割 5、社員 6、ソフトハウスの付加価値の源泉」とあり、OTASの日報上の「平等主義とオープン化」は5番目の「社員観」から来ている。「社員は会社力の基礎であり、社員の自己革命こそ付加価値を生み出す原動力である」、したがって社員の人を上司の経験、物の見方、感じ方を日報(もちろん日報だけでは不十分だが)を共有することによって、社員の成長する場、機会としようという意図である。

役員と社員

何故なら「4、役員役割

割」で「役員はオリジンの付加価値を生み出すシステムと土気の創造とメンテナンスに責任がある。その役割を果たすために権限が与えられる。故に幹部が患部にならぬための自己規律が必要である」とある。役員は会社理念である「社会（顧客）の深いニーズと結び付き、社会（顧客）の抱える問題を掘り起こし、解決する自己革新的技術者集団を作る」を実現するために、その核心たる社員の成長をはかる意識付けと仕組みを作り上げて行かねばならない。これは実は容易なことではなく、試行錯誤の連続というのが現実ではあるが、しかし、まず情報のベースである日報の共有の仕組みの中で「平等主義とオーブ



12月18日、地域科学研究会が「タクシー事業改革の

理念Ⅱ 仮説を信じて！

ン化」をトライしてきた。実はこうした「第2次創業の志」の考えは突然生まれできたのではなく、第一次オリジンが持っていた欠点を反省し、総括する中で教訓化したものである。すべての社員それぞれが創意工夫と成長を目指さなければ会社など決して発展するものではないが、それを阻むものが、悲しい事に、より上部の人の無意識の特権意識と縄張り主義だったり、エゴコントロールの欠如だったり、惰性だつたりする。自分自身もこの性(さが)と無縁ではなく、ある意味人間そのものに普遍的に存在するものかもしれないが、これと「闘い」、自己革新を目指す営みを継続する努力なくして組織と自己の発展は不可能である。恐れず進むしかない！

突破口」というセミナーを開催した。タクシー事業の歩合給、最低賃金など非常に難しい問題に真正面から取り組んでいる「志」を持ったタクシー事業者からの「理念と現実」に苦闘する報告があった。乗務員さんと業界そのものに良かれと思つて挑戦することが、当の業界と乗務員さんに理解されず、「現実」の壁に突き当たり、苦渋する姿を見るのは少々つらいことではあるが、しかし、何故か皆さん元気で、意気軒昂でもある。

理念は大概「仮説」を伴う。「現実」を「理念」で批判し、「止揚」しようとし、「理念」の「現実性」を保しようとして「仮説」を立てる。しかし「真」としてはまだ立証されず、現実性を欠いているからこそ「仮説」なのだ。だが「理念Ⅱ 価値」を信じ、「仮説」を立て、未来に向かって投企(サルトル)をできる存在こそ人間そのものであり、動物の脳である大脳辺縁系から進化し、大脳皮質を獲得した人間たる唯一の証ではな

いのだろうか？ もちろん結果は誰にもわからない。仮説が「現実」によって立証され、理念と理想に近づける人は神に祝福された人である。すばらしい事だ。が、仮に仮説が実証されず、理念が実現されぬとしても、それを信じ、そのために自分をかけられる事自体が、やはり神に祝福された人と言えるのではないかと思う(ちなみに私は特定の宗教の信者ではないが、宗教的な領域があることを信じている)。このセミナーで講演してくれたタクシー事業者の講師たちが異口同音に述べた事は「世のため、他人のため、そして自分のため」である。この順序が大事で、そして難しい。普通、人はまず自分のためと思うことが自然である。しかし、世の中には様々な人間的な葛藤を経て、真実この順序に到達する人がいるのだということを信じてほしい、尊敬を持って遇してほしい。願わくばその隊列の一員に加わりたいと念じている。

(2010年12月20日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器

ALC-miniⅢ

¥83,000より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！
吹き込む・測定する・記録する、の
カンタン3ステップアルコール測定！

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

お申し込み
お問い合わせ

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。(事業用自動車総合安全プラン 2009)

義務化に向けて
備えの1台です！

製造元 TD 東海電子株式会社
http://www.tokai-denshi.co.jp